

新任ご挨拶

会長 高橋 香樹

会長鈴木静村先生が亡くなられて二ヶ月が過ぎようとしている。

先生の御逝去は、あまりの衝撃でしばらくは机に向かう気になれませんでした。しかし、書誌・学生書誌は月刊誌、今は手本書き、編集などに追われる日々です。

この度前会長静村先生の後任役としては、人間としての信頼、書における技量、共に静村先生には遠く及ぶべくもありませんが、平岡不二子先生のご推挙により、会長職を遂行させていただくことに意を決しました。今後は、支部長先生をはじめ編集委員、同人、準同人の先生方のお力をお借りして、書誌誌の為に全力を尽してまいります。幸い、事務局には経験豊富で有能な二島さん、白井さんが控えており、事務的なことで停滞することはありません。

内容面では、篤頼先生、静村先生が進められてきた方向性を継承。書誌、学生書誌の充実を目的に取り組んでまいります。

本年の十月には書誌が八百号を迎えます。従来百号ごとの記念号では誌上展を開催してきましたが、八百号においても誌上展を企画しています。各支部の会員、個人会員の皆様、積極的出品を切に期待しております。各位の協力のもと、誌上展を成功させ静村先生による結果をご報告したいものです。今後へ向けさらなる充実と発展を期してまいります。

昇試第一部（漢字・かな）（予告）（三月二十二日締切）

平岡華雪先生書 誠を立てて敬に居る（張南軒）

立誠而
居敬

訳：至誠を立てとおすには、何としても敬の地位に居らねばならぬ。

平岡華雪先生書 野に出れば人みなやさし桃の花（素十）

人みなやさし
桃の花

故 鈴木静村会長葬儀

ご報告

鈴木静村会長葬儀は、十一月二十一日に東京都調布市の仙川会館において執り行われました。弔辞は、飯原青洲氏（書道同文会々々長）、高橋香樹主幹、小暮崧華氏（愛幽会代表代行・当会同人）の三氏から賜りました。会長の逝去を悼み、大勢の書道関係者のご会葬くださいました。愛用の筆と紙を胸に、手向けの美しい花に埋もれ、旅立たれました。



高橋香樹主幹



小暮崧華氏

追 悼



静村・香樹近作二人展より
(平成22年7月14日～17日 創立60周年記念展)

立川 遊汀

私が初めて先生にお会いしたのは、今から五十数年前になりますか、松本洪先生の「漢文入門講座」を受講した時、その日は先生当番で、当日課題のプリント用紙を風呂敷包みで抱えて持っていらっしやいました。

そしてそのプリントを風呂敷包みから取り出し、私に手渡してくださいました。その風呂敷包みを抱えた素朴な姿に先生の人柄が偲べれます。

そして現在！半世紀余の時の流れの中、先生から様々な事を学びました。書だけではなく、人生の悲喜こもごも、そして先生の作品に見る強くて深い、飾り気のない豊かな線は私の憧れでした。

また、何回かの中国旅行、特に先生が希望された漢中の旅では、摩崖刻石を始めて身近に見て感激した時のことなど思い出は尽きません。

先生はただ一筋、書の道を極め、書を愛しそして書に遊んだ九十二年の生涯でした。

先生安らかにおねわり下さい。

合掌



平成16年 書筵の集い

小暮 菘華

次回の月例会の日取りをご相談しようと思っていた矢先、静村先生のご指図が届きました。誰もがまだまだたのみに、残念です。悲しいです。

平岡華雪先生、篤頼先生亡きあと、書筵会々長を務められました先生に、長年書筵誌を通して私達会員は書を学んでまいりました。一方先生は同文会々長・叟幽会代表も務められ、叟幽会に於ては、三十年余り、親しくご指導を賜りました。まだ六十代初めの壮年の先生を囲み、書友と共に過ごした日々を懐かしく思い出します。先生のお人柄のように暖かく、人を包み込むような素晴らしい書に憧れました。『私の字を書くな』と

も言われ、手本は下さいませんでした。

私達が必死で書いた作品を丁寧に批評下さり、良い所を褒めて頂けた時はとても嬉しかったものです。長所を伸ばして育てる。そんな先生が示された書の道しるべを見失うことなく残りの書道人生を歩んでまいります。

深い感謝と、畏敬をこめて。合掌

戸張 丘邨

鈴木静村会長が十一月十二日に他界されたことは、受け入れ難い事実である。しかし、反面そのまま素直にかつ静かに受け入れたい気持ちもある。

「公私混同」という言葉があるが、静村会長の場合は、「公私一体」と表現するのが確かなような気がする。いずれの組織・団体の中にあっても中心的存在でありながら、それでいて全くの個人なのである。それが正に静村流人生ではなかったらどうか。書筵会にあつては、平岡華雪、篤頼両先生の後を見事に継がれた。二一

三年前であつたらうか、『健康に留意されて、今後も相談に乗って下さい』と申し上げたら、先生曰く『死んでしまったら君の相談には乗れないよ』という会話を思い出す。残される我々に対する激励であつたのかも知れない。今は、唯々ご冥福を祈るばかりである。合掌

北島 菁丘

此の度書筵会、同文会の最高の師でございました会長鈴木静村先生のご逝去に際し心からご冥福をお祈り申し上げます。

突然の訃報に御葬儀に是非出席させて戴く筈の直前に突然足の激痛に魔われ、歩行困難になり出席出来なかつた事には今更乍ら残念至極に存じて居ります。何卒お許し下さいませ。

今日迄の長い問会の為に渾身の力を注がれ、直接ご指導を受ける機会はありませんでしたが、お会いする度の暖かいお人柄と私のモットーとする「人間性」の滲み出たお作品に何時も魅了されて居りました。

現在宮々と存続している書廷会誌は他に優る内容充実の実力養成の書誌であるのも、創刊者平岡華雪先生と共に歩んだ静村先生、それを継承された高橋香樹先生あればこそでございます。又近年新設された漢字かな交じりの書は、静村先生が絶大な力を注がれ会の進展に大きく寄与された画期的な業績でございます。本当に有り難うございました。合掌

外川 霞夕

十三日夜突然の訃報に接し心に穴があいた様で、いつもにこやかなお優しいお顔にもうお会い出来ないのかと思うと淋しく、永遠の別れに悲しさが込み上げてまいりました。

数年前条幅臨書解説の課題を戴きました。が師匠病氣療養中の為、困ってしまい先生にご相談申し上げました。『自分流でいいですよ』と重圧を解いていただき続ける事が出来ました。

又お会する機会がございました折、『遠くからよく来たね沼津はよい所だね』とお声を掛けて下さり、先生

のふるさと伊豆下田を懐かしむ眼差しでお話された姿が目には浮びます。

長年の悲願でありました漢字かな交り書、同文会では同文新書を立ち上げ、二十六年「全国書廷の集い」では「永年の歩み、書廷の漢字かな交り書について」と題し、講演なされ情熱溢れる若々しいお話は今も心に刻まれております。書に対する長年に亘る多大な業績、博識、情熱、探求心を間近で拝見し人生の師としてまいりました。書廷、同文会を通して長い間お世話になり本当にありがとうございます。この心を忘れず、精進してまいります。合掌



平成19年 書廷の集い

石原 春香

鈴木先生には三度ほど群馬にお越いただき、書について講義や作品添削をご指導下さいました。その一つ、昭和六十三年八月、今年群馬で世界遺産候補となった「上毛三碑」(多胡碑・山上碑・金井沢碑)の見学では田中柀華先生とご一緒にいらして下さいました。近くの多胡築であゆ料理をいただき両先生の色紙抽選会では三十名の参加者と楽しく過したひとときが懐かしく思い出されます。また「全国書廷の集い」では毎年お会いするのが楽しみで、『うん、うん』『そう、そう』とよくお話しを聞いて下さったり、ある時は『石原さんは歌選びが上手だね』とお言葉をいただき、とても嬉しかったです。また今年七月十八日には、体調をくずしているにも関わらず、持ち前の律儀さで一生涯懸命書いて下さった葉書が届きました。きつかっただろう様子が窺える葉書で私の宝物となりました。会員を大切に、とても暖かい先生でした。有難うございました。合掌



平成26年 書廷の集い講演

小林 光葉

お世話になりました。

先生は広く書道界の指導的なお立場で長い間ご活躍、数々のすばらしい業績を残されました。そのようなご多忙の中、私共が地元で開催する、三葉書展(今年で三十二回)には毎回、遠路お出かけいただき丁寧にご覧下さいました。そして温かいご激励とご示唆に富んだお言葉をおかけ頂きました。今その時のことを思い起こし、悲しさと淋しさで一杯です。また、同文展や書廷誌などで拝見しました先生の数々の名作の中、「漢字かな交じりの書」の詩情表現(ムード)には大変感銘を受け、書作の上で非常に参考になり教えられました。

私共にとって、このようなふれ合いや語らいは「慈父」のようであり、その折りの「ニコリ」とした「まなざし」は私共の心に永久に残ることでしょう。お世話になりました。天国より見守って下さい。心より先のご冥福をお祈りいたします。

水貝 潮華

静村先生にご指導を受けて、三十余年が経ちました。私は不出来な弟子でしたので、いつも縮切りぎりぎりにならないと作品が出来上がらないのに、どんなにお忙しい時でも、添削を優先して下さいました。今、私が指導する立場になってみると、先生に多くのご迷惑をおかけしたことを深くお詫び致します。

静村先生は、『私に早く追いついて来なさい。そうしたら、私は倍、勉強して引き離すから』と言われました。その言葉こそ、先生の書家としての姿勢そのものだと思います。私も、弟子にその言葉をおっしゃった先生の大きな気持ちですが、やっと解るようになりまして。私も弟子たち

にそう言えるようにならなくてはと深く心に念じています。

静村先生は施設に入られてからも作品の指導して下さいました。まさに「生涯現役」でした。私も先生のように生涯現役でいられるよう、ますます精進していきます。先生、みていて下さいね。



平成17年 秋季昇試条幅審査

酒井 香雨

昨年から体調がおわるいということとお聞きしておりましたが、毎月の半切のお手本を拝見し、何か安堵しているところがありました。書道会事務局より訃報があり、やはり今年の異常気象はお身体に良くなかったのだと思うと同時に一つの「支

え」を失ったような気持ちになりました。

書道でのお言葉や御批評は基本を解り易くしっかり伝えて下さいました。つい好きなだけで書いておりました私は反省しきりでした。それでも、ある「書道の集い」の際、詩句を朗々と口ずさまれ筆を下ろされた時は、「先生」としてではなく、表現者としての書家「静村」を拝見した思いがしました。

私達の展覧会にも良く足をお運び頂き、感想や励ましの御言葉をいただきました。何とか私が書き続けられましたこと感謝の一語につきます。御冥福を御祈り致します。

加藤 洞雪

いつかはお別れの時を迎える日が来るとは覚悟はしていましたが、突然の訃報に唯驚き、悲しかった。先生との出会いは平成四年、先生の個展「鈴木静村近作書展」の図録作りの時でした。その数年前「高塚竹堂回顧展」又「平岡華雪遺墨展」を小生勤め先の同美印刷で作らせて戴い

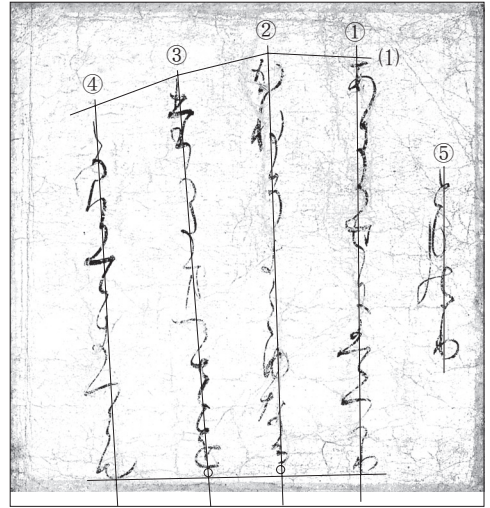
た事をご存じの事から『個展の印刷をたのむよ』と注文を戴いたので。当時先生は書道会にあっては主幹、同文会においては参与のお立場でした。小生にとっては、遙か遠い雲の上の方。お手伝い出来るのは大変な光栄、名譽な事でした。そののち、岳父加藤恵雪の死去に伴い遺言により、先生の主宰する叟幽会に入会させて戴いたのでした。爾来、書の勉強はもちろん、先生の関係する出版、印刷には出来る限りお手伝いさせて戴くように生きて来まして。平成二十二年の書道会創立六十周年記念展の時の「静村・香樹近作二人展」の図録も懸命に作らせて戴き、その時必要にせまられて、お二人の顔写真を撮らせて戴いたのが先生のご遺影となるとは想像もしませんでした。

去る七月の「鈴木静村と十四人の書展」が最期になりましたが、その図録を見て、先生はほんとうに喜ばれて、うれしそうでした。

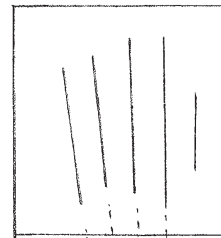
先生、出来の悪い弟子を辛抱強く導いて下さいました。有難うございました。 合掌

◆半紙たて書きに臨書して下さい。出品料430円

- 1、字句_レとも能利_の あき可_かせ_せ爾_に盤_はつ可_か利_{かり}かね曾_そ支_さこゆ_ゆなる堂_た可_か多_た万_まつ_つさを可_か介_けて支_さつらん
- 2、形式_レ前_ま回_わ同_ど様、半紙をたてにし、下方を7cm位切り取った(又は折った)ものに、作者名も含めた五行を書く。落款は〇〇臨と、五行目に添うよう、大きさも考えて入れる。
- 3、概観_レ前_ま回_わの『散らし書き』の学習の復習です。オーソドックスで自然な散らし方をして見るとよいでしょう。ただし、四文字連綿が二ヶ所、五文字連綿が二ヶ所、七文字連綿もあるという作品です。無理のない連綿にも注意したいものです。
- 4、学習のポイント(散らし書きの妙を学ぶ『その二』)
 - (1)行頭を見る
 - 。うたの行頭の一・二行目に同じくらしいの高さであるが、三行目、四行目とだんだん低くなっている…(1)
 - (2)行脚を見る
 - 。二行目と三行目は、一行目、四行目より少し上になっている…(2)
 - (3)行の傾きを見る
 - 。行の書き出しの文字の中心と、終わりの文字の中心を直線で結ぶと、行の傾き具合がわかる。…(①・②・③・④)
 - 。行が進むごとに左から右への傾きが大きくなっている。
 - 。「とも能利」には傾きは殆んどない。(⑤)
 - 。骨組みをスケッチしてみると次のようになり、色紙(用紙)を越えたるはるか右下の空間で束ねられるようなまとまりを持つ。

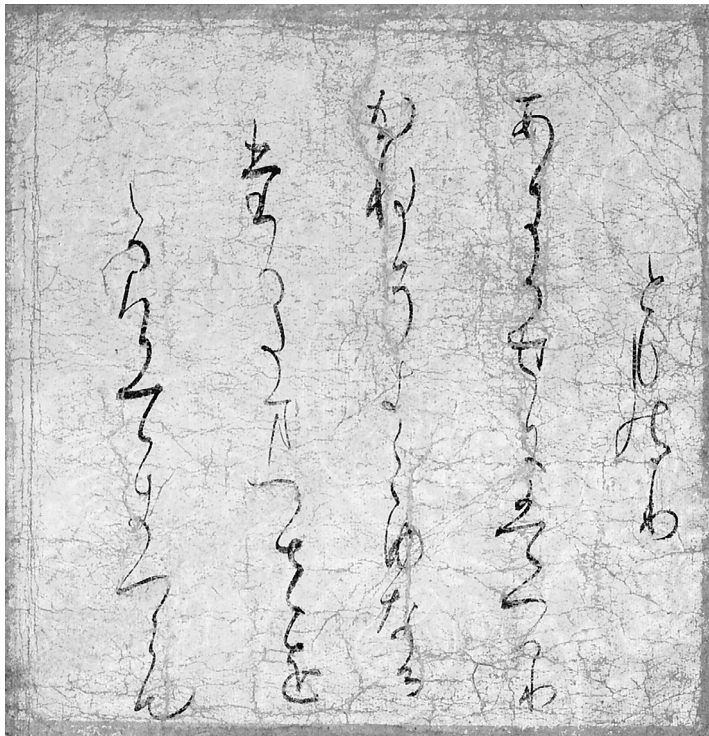


寸松庵色紙



骨組み

とも能利
 あき可_かせ_せに_には_はつ_つか_かり
 が_がね_ねぞ_ぞき_きこ_こゆ_ゆなる
 た_たが_がた_たま_まづ_づさを
 か_かけ_けて_てき_きつ_つらん

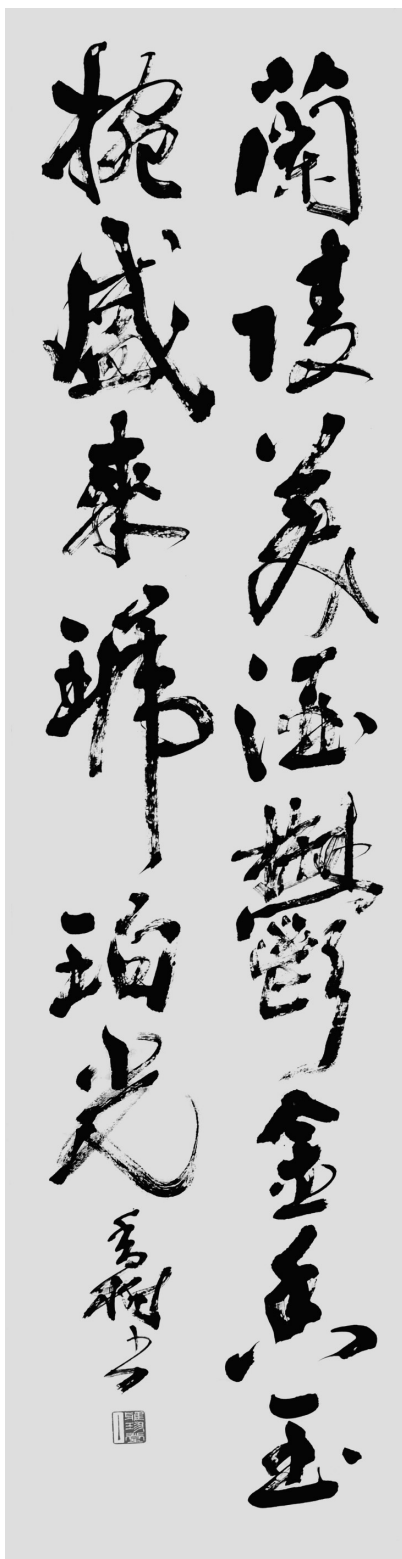


※随意部参考(条幅)としてもご利用下さい。抜粋可。
 随意部条幅は一枚目無料、二枚目から五四〇円。

A

高橋香樹会長書

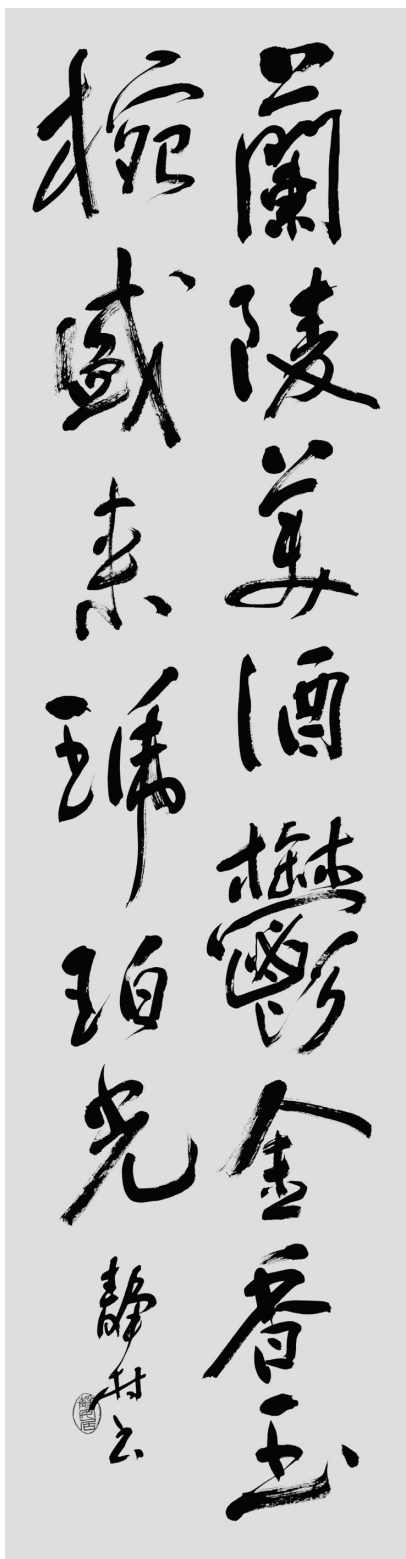
蘭陵美酒鬱金香 玉腕盛來琥珀光 (李白)
蘭陵の美酒鬱金香 玉腕盛り来る琥珀の光



B

鈴木静村先生書

濃墨、純羊毫筆を用いた為渴筆が少し多くなってしまった。筆を突いて線をひくと渴筆になりやすい。含墨時に渴筆を表出するのが墨を持たせるコツです。「鬱」は難しい漢字で、あまり使うことのない文字ですが、字典には色々な形があり、よく調べて書きたい。文字の大小にも気を配り変化の多い作を。墨継ぎは「金」と「來」。



李白の名詩の一つ。今回は起・承の二句14文字の課題。「鬱」という総画数29画の多画の文字を行書体で提示。変化を狙って、単線的に草書体を捜し書く傾向がありますが、行書体で字画を確かめつつ、書き表わすことが大切です。蘭、東は東で可。美この草書体も多い。鬱画数の多い場合は軽快に運筆。金で墨継ぎ。盛筆順に注意。書では皿が先に。学校では最後。琥珀玉偏。本来は玉(宝石の意)。訳：蘭陵で作られる美酒鬱金香を玉の杯になみなみとつげば、こはくのような美しい光を放つ。

予告 昇試第一部漢字(三月二十二日締切)

高飛雙鶴與天近

遠去孤舟隔水明(馬一龍)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品(バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

A

平岡華雪先生書

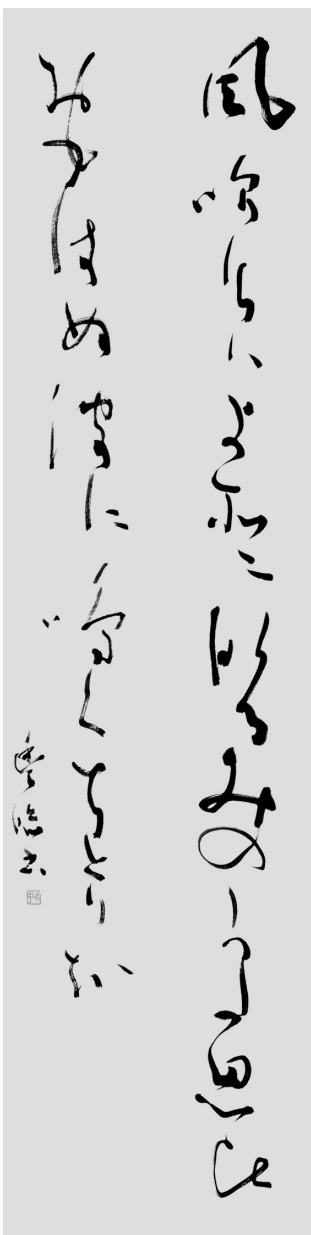
風ふけばよそになるのかた思ひおもはぬ浪になく千鳥かな (新古今和歌集 藤原秀能)
か勢婦介はよ楚尔なる三の可たおも日於茂はぬ那美二南久ちとり可那



B

吉原豊臨先生書

風吹介八よ所二那るみの可多思比おもはぬ波に鳴くちとり哉



学び方

日本の詩歌を書作品として書く場合、漢字とかなを具合よく取り扱うことが大切です。また、字の大小・字幅の広狭・墨色の変化（濃淡、潤濁など）をいろいろ考えて、書き上げていきます。今回の華雪先生のお手本では、すべてがかな（ひらがな14文字、変体がな17文字）で書かれています。かなだけで書くということは、変化がつけづらく難しいことですが、勢・婦・楚・於・南などで字の幅をとり、最後の那で大きさを強調しています。また、小さめの尔・三・可・日などを用いたり、ひらがなを要所要用することによって作品が出来上がっています。

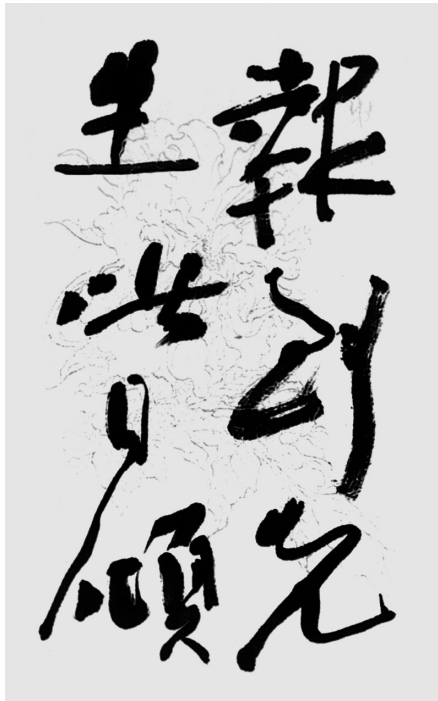
私は、漢字も用いて書いてみましたが、かなだけで書くことにも、ぜひ挑戦してください。
藤原秀能は正五位上出羽守。十六歳の時、後鳥羽院北面の武士となり、以後歌才を認められ、和歌寄人の一人となる。

歌意：風が吹くと、はなればなれになって、よその海を飛ぶ身の片思いをしながら、鳴海瀉のほうを思い、思いもよらない波の上で、鳴く千鳥であることよ。
この歌の掛詞は、「よそになる身の片思ひ」の「なる身の片」と「鳴海の瀉」とをかけ、「片」に「方」をかけるという巧妙なものである。

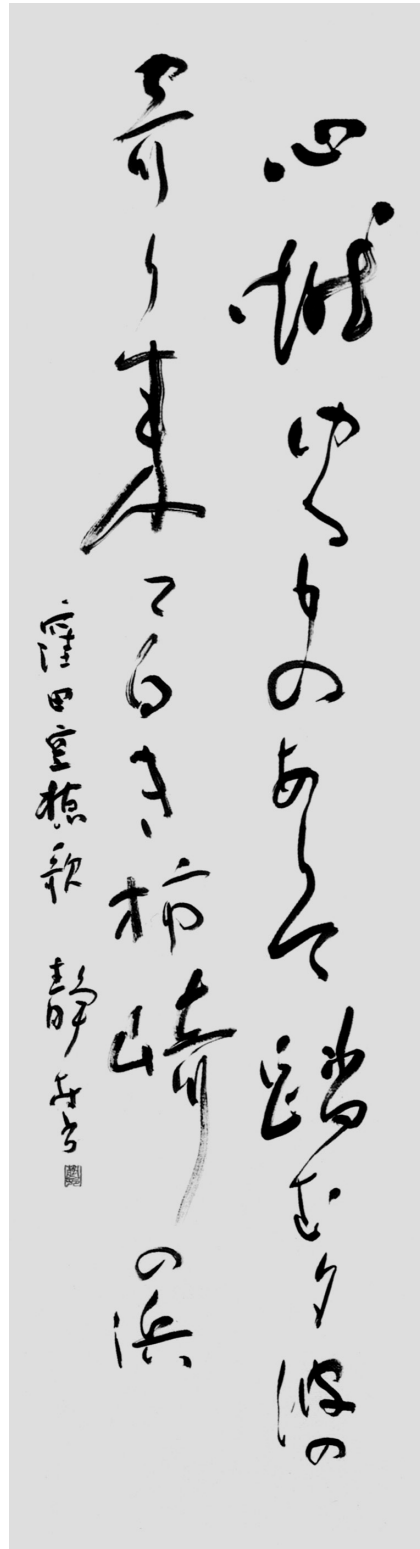
予告 昇試第一部かな (三月二十二日締切)

春の谷あかるき雨の中にして鶯なけり山のしづけさ (尾上柴舟)

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条かを○で囲み（1）と記入する。）
- ・二枚目からの出品（バーコード券の条かを○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料540円）

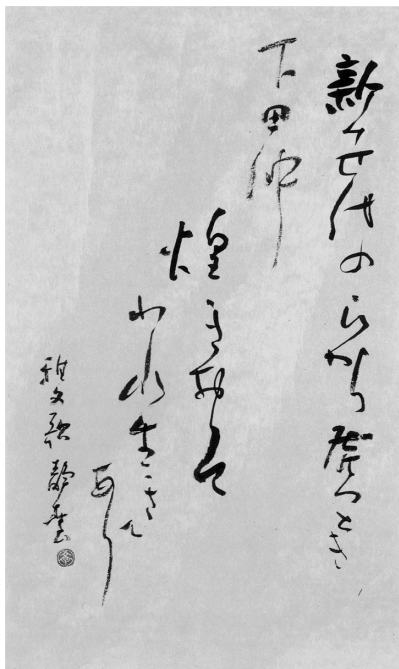


報到り先生此の日傾く(杜宣)



静村近作書展より(平成四年)

心燃ゆるものありて踏む夕波の寄り来て白き柿崎の浜(窪田空穂)

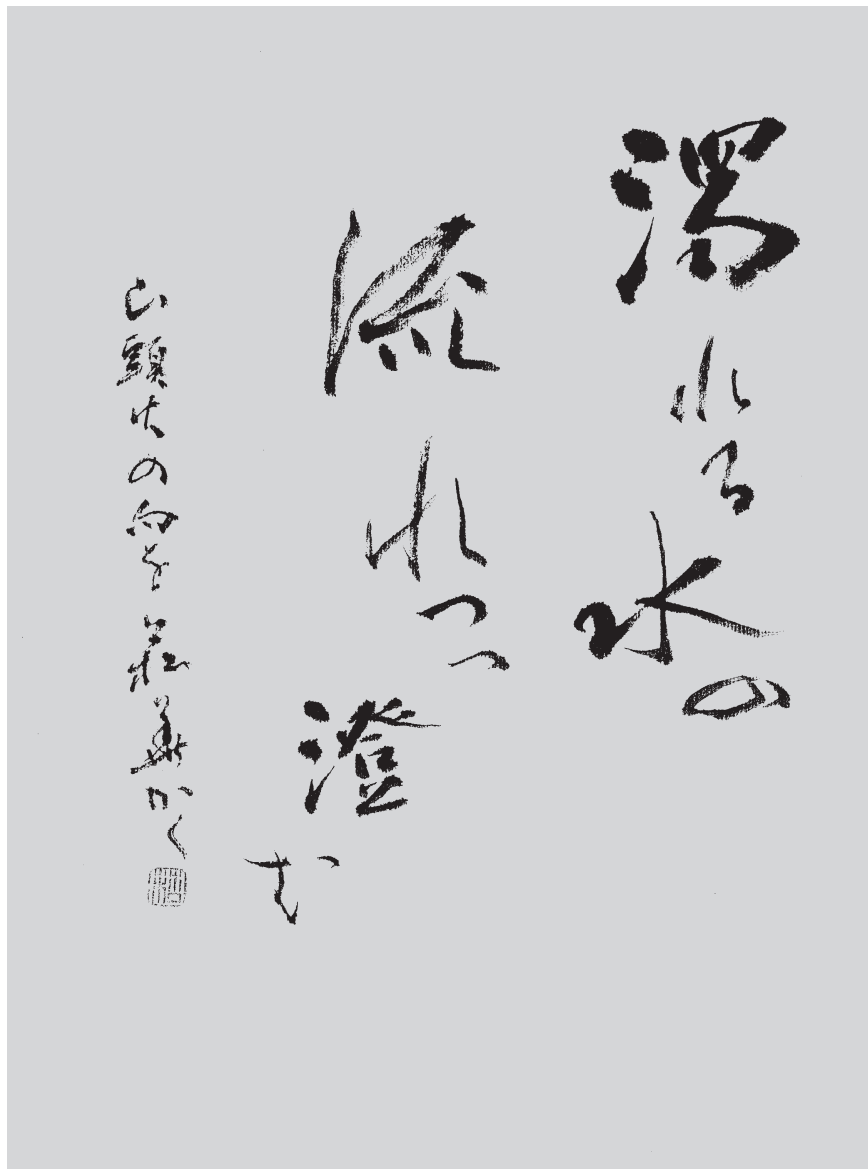


新時代のひかり発つとき下田沖煙き
おりてわれ生きてあり(曾我辺雅文)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条随を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品(バーコード券の条随を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

小暮 菘華 先生 書

今回は少字数に挑戦してみました。
少ない字数に思いを凝縮させて思い切りよく表現してみましよう。
漢字の表情に気をつけて。



濁れる水の
流れる水の
澄む
種田山頭火

種田山頭火 (一八八二年～一九四〇年) 俳人
山口県に生れる。本名正。早稲田大学中退。新傾向俳句誌『層雲』に参加。荻原井泉水門下、自由律(季語や五・七・五という俳句の決まりに捉われず思いをリズムにのせる)に基いた俳句を詠んだ。のち、禅門に入る。多様な精神性が、我々に清涼剤としての英知と憧憬を与えてくれる。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



平岡華雪先生書

身の三界の外に横たう。(普燈録)
訳：悟れば三界(欲・色・無色)に縛られぬ。

〈鍛えぬかれた線と「趯法」への迫り〉
お手本の線の引き締まりを見てください。鍛えぬかれた筋肉体を想わせます。平たく、軽い線ではなく、このように勁く鋼鉄的で、深みのある線が生命なのです。根源は用筆法に尽きます。工夫しながら、練磨を積んでください。四文字中に「趯法」があります。次画に向け、擡たいて脈絡の筆意。続け出す、気持ちが大切です。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

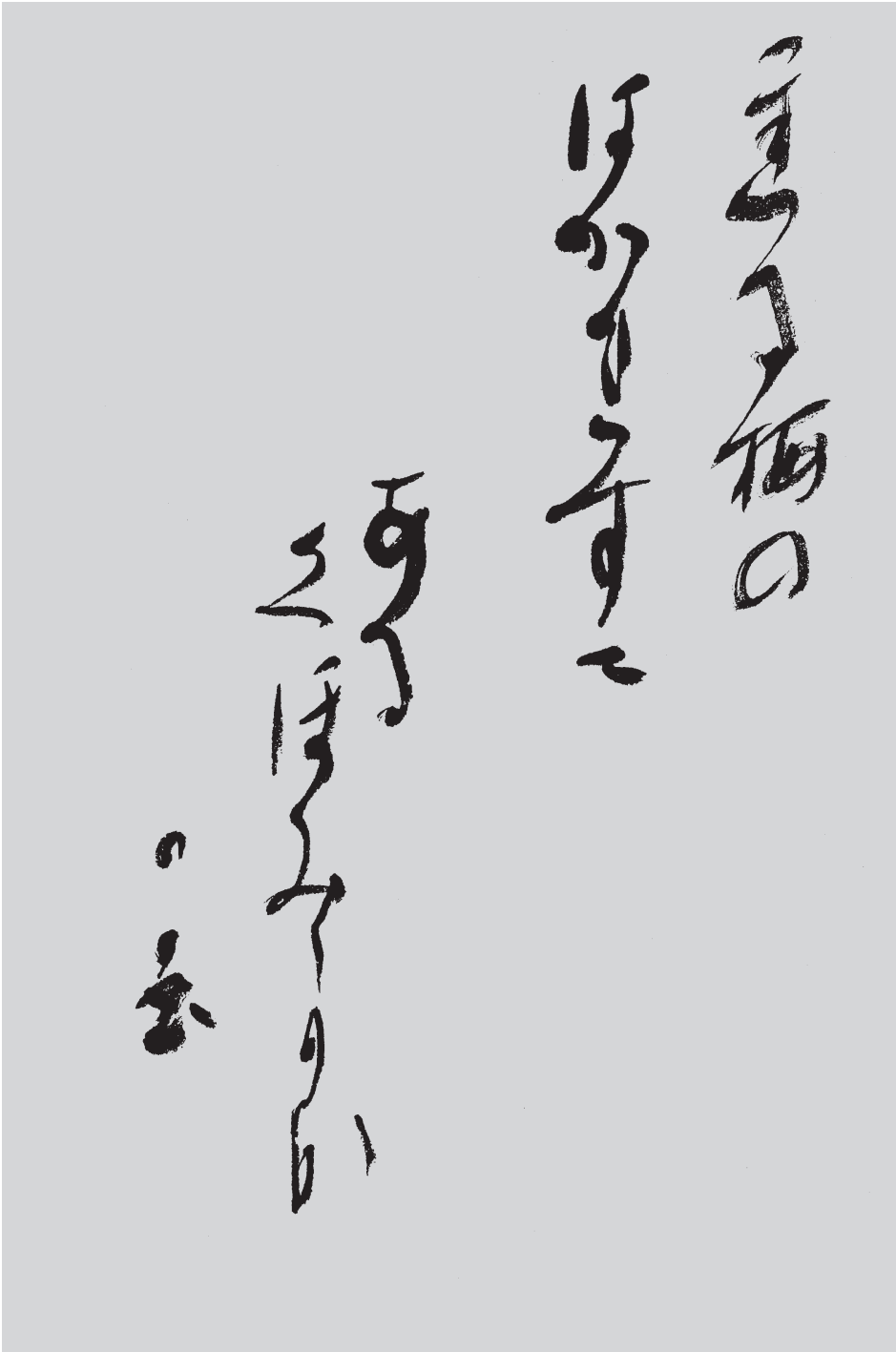
①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

平岡華雪先生書

散る梅の掃かれずにある淫みかな (高濱虚子)
遅る梅のはか連す二ある久ほみ可那

〈背臨により「ガ」アップ〉
変体がな、漢字も今までに何回か学んだものが多く、復習的課題。「遅」は古筆の筆意に迫って下さい。「梅」の旁の崩し方明確に把握のこと。〈背臨〉を試みることを奨励します。

梅
梅



予告 昇試第二部かな (三月二十二日締切)

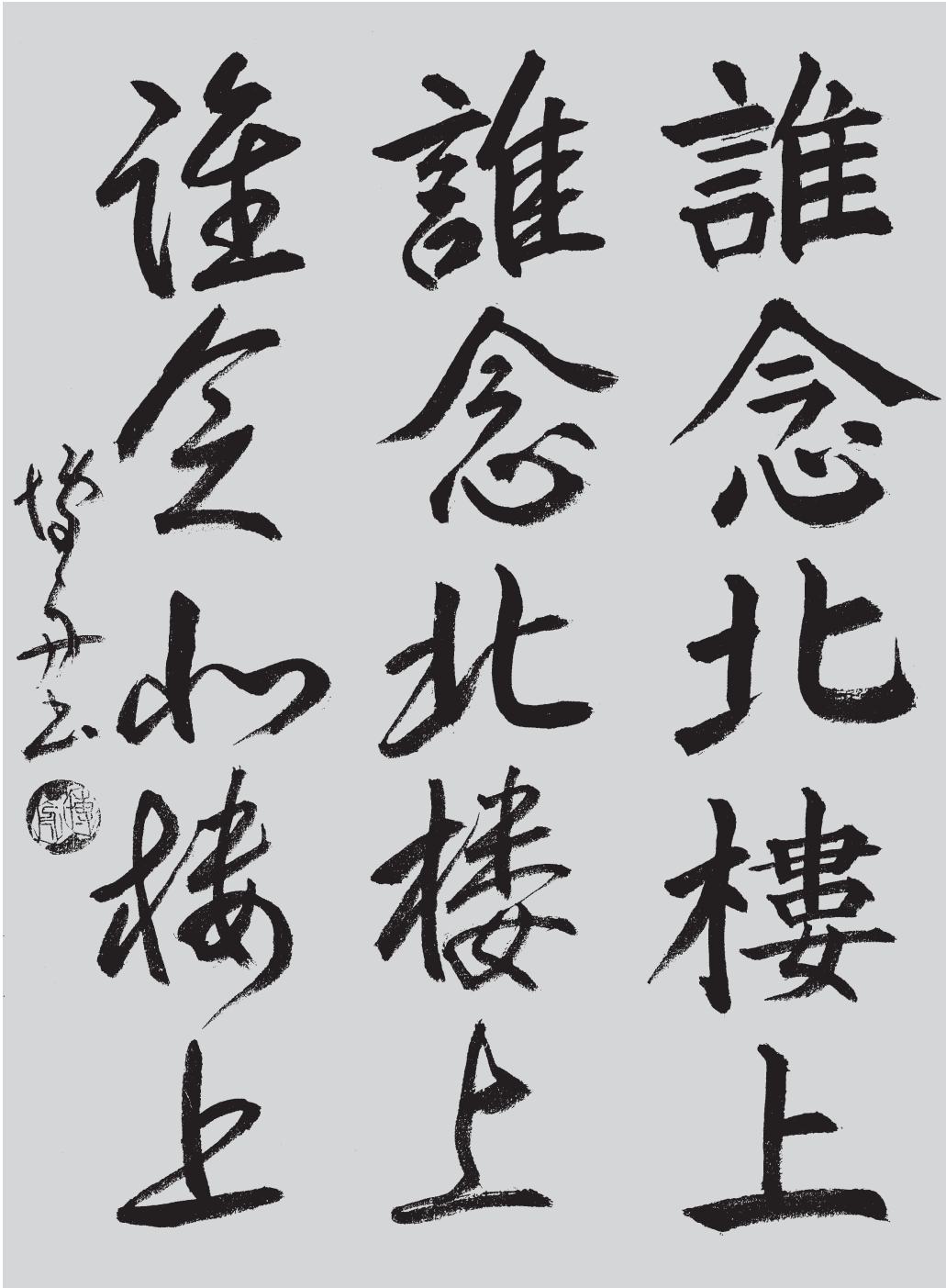
あしびきの山の峽なる一つ家のわら家の軒の花さきにけり (左千夫)

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。
①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

北
沢
博
舟
先
生
書

誰念北樓上（李白）
誰か念わん北樓の上

訳：ああ誰が知りえようか。いまこの北樓の上に立ち、



予告 昇試第一部漢字（三月二十二日締切）

臨風懷謝公（李白）

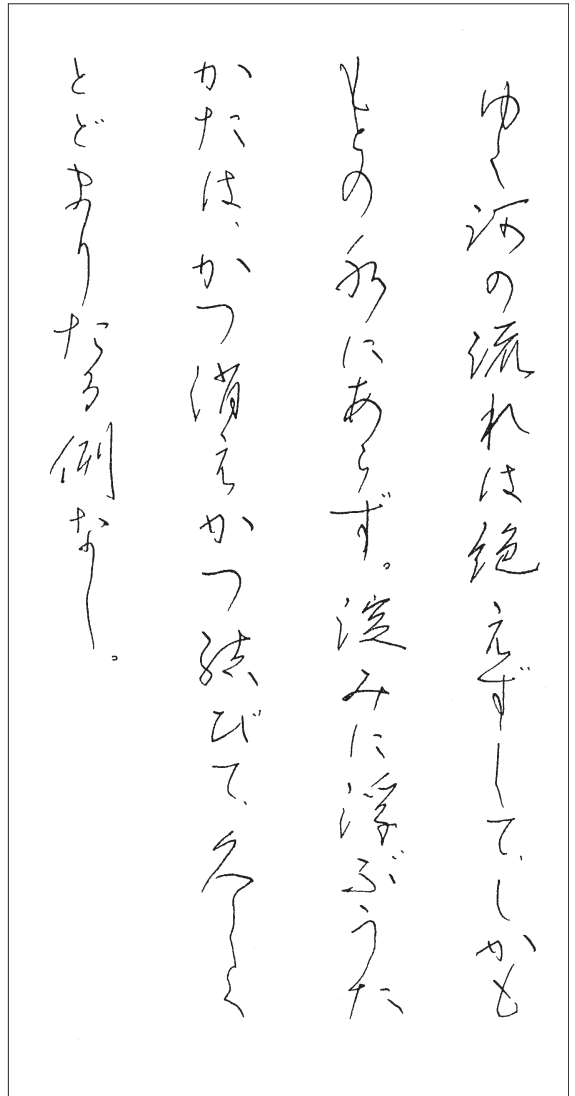
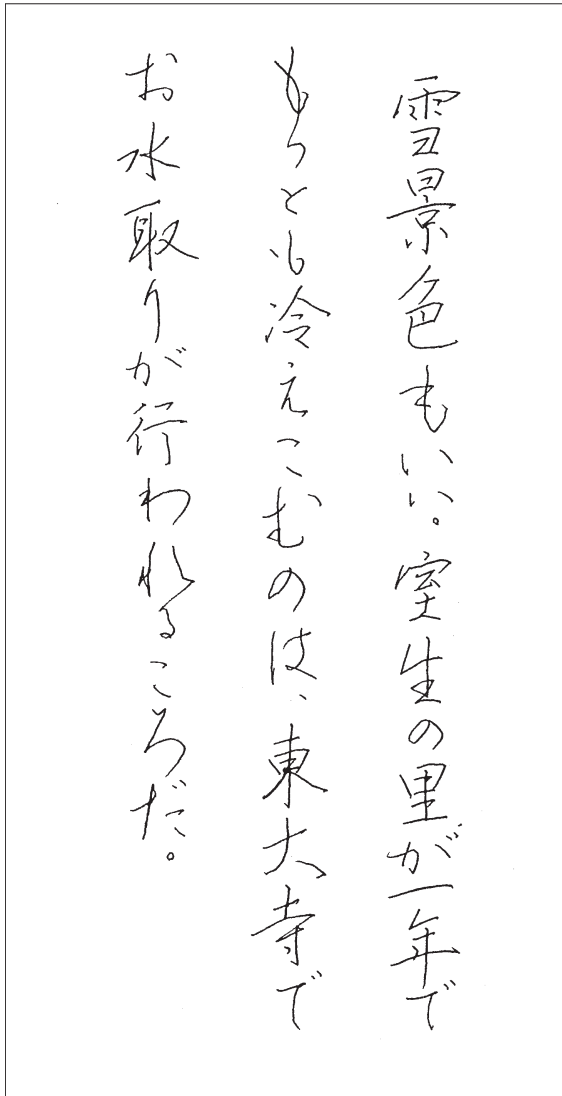
1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円。

松浦江波先生書

石原春香先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

ゆく河の流れは絶えずして、しかも
もとの水にあらず。淀みに浮ぶう
たかたは、かつ消えかつ結びて、久
しくとどまりたる例なし。

「方丈記」 鴨長明

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円

課題2 (初段階以下)

雪景色もい。室生の里が一年で
もとも冷えこむのは、東大寺でお
水取りが行われるころだ。

「百寺巡礼 室生寺」 五木寛之